

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 47

The Jazz Crusaders【ザ・ジャズ・クルセイダース】

～ザ・クルセイダースの前身として人気を博した名バンド～

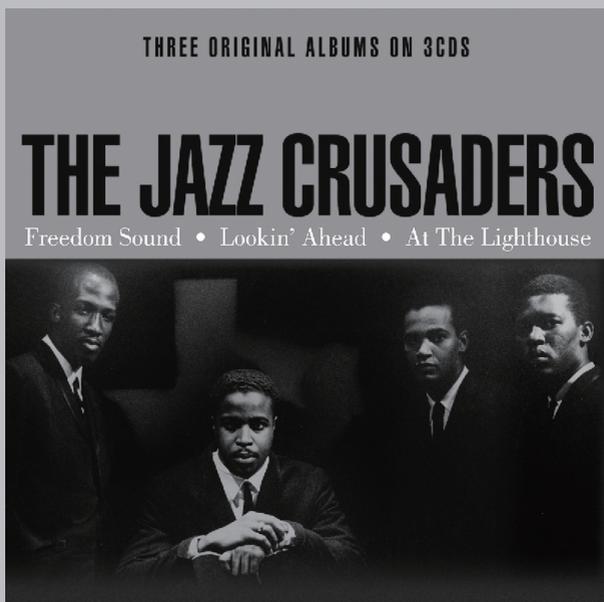


Photo : "Anthology" / The Jazz Crusaders (Not Now Music : NOT3CD235)

Profile

米国テキサス州のハイスクールで同級生だったウェイン・ヘンダーソン (tb)、ウィルトン・フェルダー (ts)、ジョー・サンプル (p)、スティックス・フーパー (ds) の4人で結成されたグループで、何度かグループ名を変更した後、1961年にザ・ジャズ・クルセイダースとしてアルバム『フリーダム・サウンド』でメジャー・デビューを果たした。そのサウンドはウェインのトロンボーンとウィルトンのテナー・サククスによるアンサンブルに、ジョーのピアノによるアドリブやソロが加わり、リズム隊はスティックスのドラムに作品毎にゲスト・ベーシストを迎えるという編成を取っていた。71年にグループ名がザ・クルセイダースに変更されるまで、60年代を通じて人気を博した。95年にジャズ・クルセイダース名義でアルバム『ハッピー・アゲイン』を発表。その後、ネクスト・クルセイダース名義を経て、新生ジャズ・クルセイダースとして数枚のアルバムが発表されたが、今回は1961年にメジャー・デビューを果たしてから約10年間活動したザ・ジャズ・クルセイダース時代にスポットをあてている。そのザ・ジャズ・クルセイダース名義では1961年から1970年までに18作品ほど残されているが、国内盤でリリースされていない作品も多い。4人のオリジナル・メンバーのうち、ウェイン・ヘンダーソンは2014年4月5日に74歳で死去。ウィルトン・フェルダーは2015年9月27日に75歳で死去。ジョー・サンプルは2014年9月12日に75歳で死去。スティックス・フーパーのみ健在。ザ・ジャズ・クルセイダースにゲスト参加した歴代ベーシストは、ジミー・ボンド、ヴィクター・ガスキン、ボビー・ヘインズ、モンク・モンゴメリー、アル・マッキボン、リロイ・ヴィネガー、ハービー・ルイス、バスター・ウィリアムス。

The JC's Great Albums

ザ・ジャズ・クルセイダース名義では1961年から1970年までに18作品ほど残されているが、ここに紹介した3つの作品以外も機会があればぜひ聴いてみたい。

ベースにリロイ・ヴィネガーが参加した1966年の白熱の名ライヴ盤



ライヴ・アット・ザ・ライトハウス '66
ザ・ジャズ・クルセイダース
(Pacific Jazz Records : CDP-7243) [Import CD]

ウェイン・ヘンダーソン (tb)、ウィルトン・フェルダー (ts)、ジョー・サンプル (p)、リロイ・ヴィネガー (b)、他

1. アレルヤ
2. ブルース・アップ・タイト
3. ユー・ドント・ノウ・ホワット・ラヴ・イズ
4. ミス・イット・シー・オール (他、全9曲)

ベースにリロイ・ヴィネガーが参加した1966年のスタジオ録音盤



トーク・ザット・トーク
ザ・ジャズ・クルセイダース
(Pacific Jazz Records : PJ-10106) [Import LP]

ウェイン・ヘンダーソン (tb)、ウィルトン・フェルダー (ts)、ジョー・サンプル (p)、リロイ・ヴィネガー (b)、他

1. ウォーキン・マイ・キャット・ネームド・ドック
2. スチュードウッド
3. アイ・キャント・ビリーヴ・ユー・ラヴ・ミー (他、全12曲)

ベースにバスター・ウィリアムスが参加した1969年のライヴ盤



ライトハウス '69
ザ・ジャズ・クルセイダース
(Pacific Jazz Records : JP-8855) [Import LP]

ウェイン・ヘンダーソン (tb)、ウィルトン・フェルダー (ts)、ジョー・サンプル (p)、バスター・ウィリアムス (b)、他

1. ゲット・バック
2. イッツ・ゴッタ・ビー・リアル
3. ウィリー・アンド・ローラ・メイ・ジョーンズ
4. ルビー・ピゴニア (他、全8曲)

1966年1月14~16

日LAのハモサビーチにあったクラブ「ライトハウス」で行われたライヴを収録。1曲目の「アレルヤ」からファンキー&グルーヴ感が炸裂。2曲目の「ブルース・アップ・タイト」もカッコいい。オリジナル・メンバーにベースは本誌由来のリロイ・ヴィネガーが参加。リロイの低く重くズシリと響くウォーキング・ベースが最高で、リロイのオリジナル「ドゥーイン・ザット・シング」も収録。ラストの「マイルストーンズ」も必聴。

こちらもオリジナル・

メンバーにリロイ・ヴィネガーがベースで参加し、初の試みとなったビッグ・バンドのアレンジが施された1966年のスタジオ録音盤。ウォーキング・ベースの職人リロイが参加しているからだろうか、「ウォーキン・マイ・キャット・ネームド・ドック」「ウォーク・オン・バイ」とウォークがタイトルに付く曲が2曲収録。また、ビートルズが席卷していた時代背景だろうか、平均時間2分30秒程の曲が12曲収録。

『ライヴ・アット・ザ・

ライトハウス '66』と同じクラブで1969年7月26 & 27日に収録されたライヴ音源。オリジナル・メンバーにバスター・ウィリアムスがベースで参加。オープニングでこのライヴの3ヶ月前に19枚目のオリジナル・シングル曲としてビートルズが発表した「ゲット・バック」を取り上げている点も注目。ジョー・サンプルのビリー・プレストンばりのプレイも必聴。バスターのオリジナル「ルビー・ピゴニア」もカッコいい。

ザ・クルセイダース

1961年に野望を抱いてテキサス州からウエスト・コーストのLAに進出したザ・ジャズ・クルセイダースは、1971年にザ・クルセイダースにグループ名を変更した。その後、そのスタイルをR&B、ファンク志向の路線に変更して、1970年代のクロス・オーヴァー・ジャズ・ブームを代表する人気グループとなった。オリジナル・メンバー4人にラリー・カールトン (g) が途中参加し、1976年までヒット・アルバムを連発した。同年ウェイン・ヘンダーソンが脱退して以降、何度か再結成されたが、オリジナル・メンバーの4人が揃うことはなかった。

ライトハウス

1949年のオープン以降、1970年代後半までウエスト・コーストの名門ジャズ・クラブとして繁栄したライトハウス。元々ポリネシア・スタイルのクラブだったが、1948年にオーナーがジョン・レヴィンに代わり、ハワード・ラムゼイ (b) がジャズに最適なクラブだと助言したことがきっかけで人気ジャズ・クラブへと変貌を遂げた。ザ・ジャズ・クルセイダース名義のアルバムだけでもこのライトハウスでのライヴ・アルバムが4枚も残されており、イースト・コーストの名門ヴァレージ・ヴァンガードに匹敵する人気ジャズ・クラブだったことを実感させられる。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.20

~ Blue Bossa [ブルー・ボッサ] ~

この曲は1963年にジャズ・トランペッターのケニー・ドーハムが、ハード・バップとボッサ・ノヴァのミックスで作曲したとされ、後輩のテナー・サクセス奏者ジョー・ヘンダーソンのデビュー・アルバム『ページ・ワン』のために書き上げ、同年発表されたこのアルバムで初めて披露された。この曲がアルバムのトップを飾り、作曲者のケニーがトランペットを担当。アルバムの大ヒットと共に、今尚多くのアーティストに親しまれ、カバーされ続けている。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- ジョー・ヘンダーソン『ページ・ワン』
- ハンク・モブレー『ブルー・ボッサ』
- 藤原清登 & MG4 スペシャル『ライブ・アット・スイート・ベイジルNY』
- ザ・グレート・ジャズ・トリオ『コラボレーション』
- ダン・ニマー・トリオ『モダン・ディ・ブルース』